

新潟大学医学部医学科 第5回学外講義2017 『感染症の脅威に立ち向かう』

日 時:平成29年3月4日(土) 13時~15時
 会 場:新潟市民プラザ ホール(NEXT21ビル6階)

当日は多数の方よりご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
 ご質問いただきました内容について、以下のとおり回答させていただきます。

講義1 子どもたちを感染症から守るために

齋藤 昭彦 教授(大学院医歯学総合研究科・小児科学)

ご質問	回答
ウイルスがあつて ワクチンができて 遠い未来数えきれないワクチンが存在するようになるのでしょうか	ヒトに対して、重い病気を引き起こすウイルスに対して、ワクチンを作る試みは今後も続きますが、その技術にはまだ限りがあります。一方で、今後、今までにはない新しいウイルスも登場してくるでしょう。ですので、将来、今よりも多くのワクチンができるようになることに間違いはありませんが、その戦いは今後もずっと続いていくものと思われまます。
今後追加される予定の予防接種はありますか？一回の受診時に何本くらいまでの接種が可能ですか？同時に数種類の予防接種をすることでの副反応増加はあるのでしょうか？	今後、追加が検討されているワクチンは、子どもの複数のワクチンが1本になった混合ワクチン、大人の百日咳を予防するためのワクチンなどがあります。 同時接種において、原則、本数の制限はありません。また、それぞれのワクチンで起こる副反応の頻度が変わりはなく、一緒に接種することでその頻度が増えることはありません。

講義3 ウイルス感染が癌を発症させる

藤井 雅寛 教授(大学院医歯学総合研究科・ウイルス学)

ご質問	回答
HTLV-1が、世界的に見ても日本、とりわけ九州に多い理由をおしえて下さい。	<p>HTLV-1ウイルスは、母乳を介した母子感染および性行為により感染します。HTLV-1ウイルスが、世界および日本の中で偏在して感染している理由は、以下のように考えられています。</p> <p>現在の日本人は、主として縄文人と弥生人に由来すると考えられています。日本におけるHTLV-1ウイルスの分布は、縄文人を祖先に持つヒトの地域と一致しています。即ち、縄文人がHTLV-1に感染した集団だったようです。</p> <p>HTLV-1ウイルスは、アフリカで縄文人の先祖に感染しました。HTLV-1ウイルスに感染した縄文人の先祖は、日本列島に新石器時代(およそ1万年前)にやってきました。その後、HTLV-1に感染していない弥生人の先祖が朝鮮半島から日本に渡来しました。縄文系の人々は、弥生人によって南北に押しやられました。そのために、HTLV-1ウイルスの感染者は、九州の南西部、四国の沿岸部および東北と北海道の一部に高頻度で見つかります。また、弥生人は縄文人よりもHTLV-1ウイルス感染に対して抵抗性を持つために、縄文人から弥生人への感染は低かったと考えられています。</p> <p>HTLV-1ウイルスは、アフリカで縄文人の先祖に感染しました。HTLV-1ウイルスに感染した縄文人の先祖は、アフリカと日本以外に、南米、カリブ海地域、およびオーストラリア(先住民)に定住しました。これらの地域の住民にHTLV-1ウイルスは高頻度で感染しています。</p>